

学習指導要領		都立農産高校 学カスタンダード
<p>(1) ア 自然環境と歴史</p> <p>世界史へのいざない</p> <p>歴史の舞台としての自然環境について、河川、海洋、草原、オアシス、森林などから適切な事例を取り上げ、地図や写真などを読み取る活動を通して、自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることに気付かせる。</p> <p>イ 日本列島の中の世界の歴史</p> <p>日本列島の中に見られる世界との関係や交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な事例を取り上げ、年表や地図などに表す活動を通して、日本の歴史が世界の歴史とつながっていることに気付かせる。</p> <p>ア ユーラシアの諸文明</p> <p>自然環境、生活、宗教などに着目させながら、東アジア、南アジア、西アジア、ヨーロッパに形成された諸文明の特質とユーラシアの海、陸における交流を概観させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人類は自然環境の制約を受けると同時に、自然環境に働きかけて適応するなど相互に作用し合っていることを知る。 ・ 地図を見て、河川が人類の発展に大きく関わってきたことに気づき、農業を行うために必ず川のそばに生活の場を設けていたことを知る。 ・ 海が人間に大きな恩恵をもたらす一方で、人の生活に制限や脅威を与えていたことを知る。 ・ 人類の歴史が地理条件に大きな影響を受けて進んできたことを理解する。 ・ 地図の中で日本が世界の一部であり、東西の文化の交流の中で、日本にも様々な文化が伝わってきたことに気づく。また、逆に日本から他の地域に広がっていった物があることを知る。 ・ 世界の出来事と日本の出来事に関連づけて考察することで、日本史上のトピックの世界史的な意義を考察する。 ・ 中国文明の都市国家から中国の統一の過程を理解することを通して、東アジア世界の歴史が中国に大きな影響を受けながら進んできたことを理解する。 ・ インドの歴史が西アジアから影響を受けながら独自の文化を形成したことを知り、それが海や陸を通してアジアに大きな影響を与えたことを理解する。 ・ オリентでは、文明がユーフラテス川やティグリス川、ナイル川で発生し栄えたことと、オリントの風土から生まれた、世界史の中で大きな役割を果たし続けるユダヤ教、イスラム文化の内容と発展について理解する。 ・ オリントに影響を受けて、地中海沿岸地域ではギリシアとローマに文明が栄えたことを知る。 ・ キリスト教の成立と発展について知る。 	

学習指導要領		都立農産高校 学カスタンダード
<p>(2) 世界の一体化と日本</p> <p>イ 結び付く世界と近世の日本 大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアの接触と交流、アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制、大西洋世界の展開とアメリカ・アメリカ社会の変容を扱い、16 世紀から18 世紀までの世界の一体化の動きと近世の日本の対応を把握させる。</p> <p>ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 産業革命と資本主義の確立、フランス革命とアメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民形成を理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域で発展を遂げる過程で、次第に他地域と交易が行われていたことを知る。その中で、人・物の移動が始まり、文化的にも関わり始めたことに気付く。 ・15 世紀後半から、ヨーロッパの国々がアジア、アフリカ、アメリカに対して対外進出していったことを知る。日本にもキリスト教が浸透したことを知る。 ・大航海時代を通して、世界の各地域が結びつきはじめたことに気付き、その影響と世界の変容について理解する。 ・ヨーロッパでは、教皇と皇帝が中心だった社会体制から、新たに主権国家体制へと枠組みが変化したことに気付く。 ・イギリスで今日につながる産業革命が発生し、その結果、資本主義社会の形成や交通革命を引き起こしたことを知る。 ・フランスでは、特権身分への反対から革命が起こり、身分制社会の枠組みが壊れ、近代市民社会へとつながっていったことを知る。 ・アメリカの独立や合衆国憲法が後のフランス革命やヨーロッパの運動につながったことを知る。 ・ヨーロッパではウィーン体制下で自由主義や国民主義の運動が高まったことを知る。 ・イギリスが世界の工場として、世界市場を形成したことを知る。また、世界的分業を行う中で、農業が変化したことに気付く。 ・ヨーロッパ諸国で国民国家の形成や皇帝主導の統一がなされたことを知る。 	

学習指導要領		都立農産高校 学カスタンダード
<p>エ アジア諸国の変貌と近代の日本 ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、その中で日本の動向を扱い、19世紀の世界の一体化と日本の近代化を理解させる。</p> <p>(3) ア 急変する人類社会 地球社会と日本 科学技術の発達、企業や国家の巨大化、公教育の普及と国民統合、国際的な移民の増加、マスメディアの発達、社会の大衆化と政治や文化の変容などを理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの社会の変化について、人類史的視野から考察させる。</p> <p>イ 世界戦争と平和 帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格、それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インドはイギリスの植民地化され、英領インド帝国が成立したことを知る。 ・中国ではアヘン戦争・アロー戦争によって領土を割譲される中で、太平天国などの民衆運動が起きたことを知る。 ・日本は江戸幕府鎖国中にアメリカより開国を迫られ、明治維新を経て、近代化を進めたことを知る。 ・第2次産業革命の結果、大衆社会が成立した。それにより、市民の政治参加や大量生産・大量消費、大衆文化が始まり、世界中に影響を及ぼしていることに気付く。 ・帝国主義諸国が世界侵略することで、世界の一体化が進んだことに気付く。 ・第一次世界大戦の原因と総力戦としての特色を知る。 ・第一次世界大戦後、新たな国際秩序としてヴェルサイユ体制とワシントン体制が形成されると同時に、国際連盟が発足したことを知る。 ・第一次世界大戦後に、インドではガンディー中国では五・四運動などの民族運動が発生したことを知る。 ・世界恐慌の結果、世界各国でさまざまな恐慌対策がなされたことを知る。 ・世界恐慌の結果、日本が日中戦争を起こしたことを知る。 ・ヨーロッパ、アジアの戦争が後に太平洋地域も巻き込んで世界大戦に拡大したことを知り、第一次世界大戦よりも大きな被害、犠牲をもたらしたことに気付く。 	

学習指導要領	都立農産高校 学カスタンダード
<p>ウ 三つの世界と日本の動向</p> <p>第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立と日本の動向、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解させ、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察させる。</p> <p>エ 地球社会への歩みと課題</p> <p>1970年代以降の市場経済のグローバル化、冷戦の終結、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、地球社会への歩みと地球規模で深刻化する課題について考察させる。</p> <p>オ 持続可能な社会への展望</p> <p>現代世界の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦後にアメリカとソ連が対立し、冷戦状態になったことを知る。 ・第二次世界大戦後、アジア・アフリカ諸国が独立し、国際社会で第三世界として新しい勢力となっていることに気付く。 ・冷戦の緊張緩和から終わる過程を知る。 ・グローバル化の中で、地域統合が進んでいることに気づく。 ・冷戦が終結した現代でも世界各地で紛争が起こっていることを知り、歴史に起因している争いもあることに気付く。 ・冷戦終結後に頻発している民族対立や地域紛争について、社会はその解決のためにどのような対策をすればよいか考察する。 ・現在発生している民族対立や地域紛争の原因が歴史に起因するものであることを理解し、歴史の内容からどのような社会にしていくことが望ましいか考察する。

